

北竜町地域農業再生協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

北竜町は、全耕地面積に占める主食用米の割合が68.3%であり、また転作面積に占めるそば・大豆・麦など畑作物の割合が多く、今後土地利用型農業の生産性向上等をより一層進めて行く必要がある。

しかしながら、主食用米の需要は年々減少しており、他の作物への作付転換を促進することで、水田面積の維持を図っていく必要がある。

こうしたなか、麦・大豆については、排水不良や連作障害等によって単収が低下するなど、年次による収量の変動が顕著であり、改善が必要となってきた。

また、当地域においては農業従事者の高齢化が進んでおり、農地中間管理機構の事業を活用して担い手への集積を図ることが必要である。

このような中、北竜町農業再生協議会では、水田フル活用ビジョンの策定に当たり、営農組合長会議での協議、当協議会の会議を経て検討を進めてきたところであり、今後においても更に制度に対する浸透を図り、農家全体の生産性、収益性向上のために営農技術の確立と高品質かつ安定的な収量確保を目指していくこととしている。

2 作物ごとの取組方針

町内約3,000haの水田について、適地適作を基本とし、産地交付金を有効に活用しながら、作物生産の維持・拡大を図ることとする。

(1) 主食用米

売れる米づくりの徹底によって米の主産地としての地位を確保する。前年の需要動向や集出荷業者の意向を勘案し、生産数量目標に沿った作付面積を確保する。

(2) 非主食用米

ア 飼料用米

主食用米の需要減が見込まれる中、需要に応じた生産数量を確保するにあたり、直播適正や病害虫抵抗性、低コストに資する特性を持った多収品種の導入を積極的に進め、合理的な営農形態が確立するよう推進する。

イ 加工用米

主食用米の需要減が見込まれる中、需要に応じた生産数量を確保する。

ウ 備蓄米

主食用米の需要減が見込まれる中、需要に応じた生産数量を確保する。

(3) 麦・大豆・飼料作物

麦・大豆については、農家収益の向上に重要な作物であることから、産地戦略作物として位置づけ、生産性・品質向上にGAP（農業生産工程管理）を導入し、今後も地域において振興を図っていくこととする。その方策として、融雪の促進を図るとともに、湿害を回避するための排水対策の実施および連作障害回避に向けた輪作体系を推進し、生産性及び収益性向上を図る。

飼料作物については、需要に応じた生産数量を確保する。

(4) そば・なたね

そばについては、産地戦略作物として位置づけ、産地形成と商品価値を高めるため、北竜町畑作生産組合を中心とした栽培技術指導をおこない、高品質かつ安定的な収量を確保する。

なたねについては、地域の実需者との契約に基づき、現行の栽培面積を維持、推進する。

そば・なたねについてもGAP（農業生産工程管理）を導入し、融雪の促進を図るとともに、湿害を回避するための排水対策の実施および連作障害回避に向けた輪作体系を推進し、安定的な生産性・品質向上を推進する。

(5) すいか・メロン・販売用ひまわり（油・ナッツ）

すいか・メロン・販売用ひまわりについては、農家収益の向上に重要な作物であり、地域振興作物として位置づけ、消費者及び実需者等の需要に応じた生産の導入を図るべく、生産性・品質向上にGAP（農業生産工程管理）を導入し、現行の栽培面積の維持拡大を図る。

(6) 緑肥作物

生産性及び収益性向上を図る上でも連作障害回避および地力向上のため、休閒緑肥の作付を推進する。

(7) 景観形成作物（ひまわり）

ひまわりは当地域において重要な観光資源となっていることから、地域振興作物として位置づけ、現行の作付面積の維持を図る。

(8) その他の地域振興作物

その他別紙に定める作物については、農家収益の向上に重要な作物であることから、地域振興作物として位置づけ、生産性・品質向上にGAP（農業生産工程管理）を導入し、現行の栽培面積の維持を図る。

(9) 不作付地の解消

現行の不作付地の解消を図る。

3 作物ごとの作付予定面積

作物	平成 28 年度の作付面積 (ha)	平成 29 年度の作付予定面積 (ha)	平成 30 年度の目標作付面積 (ha)
主食用米	1791.8	1796.2	1742.6
飼料用米	37.9	18.2	40.0
米粉用米	-	-	-
WCS 用稲	-	-	-
加工用米	31.5	3.5	31.8
備蓄米	-	-	55.0
麦	80.7	88.5	100.2
大豆	163.4	163.5	148.0
飼料作物	5.8	5.8	6.9
そば	367.2	370.0	377.1
なたね	5.7	0	10.0
その他地域振興作物	107	88.7	140.0
・すいか	2.9	4.1	4.5
・メロン	6.8	10.8	11.0
・販売用ひまわり	2.4	5.1	5.5
・			

4 平成 29 年度に向けた取組及び目標

取組 番号	対象作物	取組	分類 ※	指標	平成 28 年度 (現状値)	平成 29 年度 (目標値)
1	小麦	収穫量の増加	ウ	反収	345kg/10a (80.7ha)	360kg/10a (88.5ha)
	大豆	輪作による面積の 維持・拡大	ウ	面積	163.4 ha	163.5 ha
2	そば	収穫量の増加	ウ	反収	42.8kg/10a (367.2ha)	50kg/10a (370.0ha)
3	すいか	面積の維持・拡大	ウ	面積	2.9 ha	4.1 ha
	メロン	面積の維持・拡大	ウ	面積	6.8 ha	10.8 ha
	販売用 ひまわり	面積の維持・拡大	ウ	面積	2.4 ha	5.1 ha

